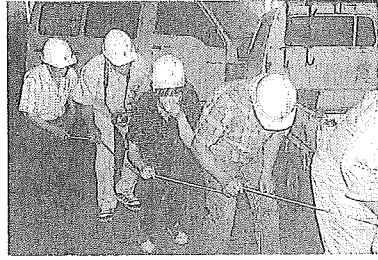


建設業
宮坂工業
住民らと有事に備え
帯広と北見で防災訓練

【帯広・北見】宮坂建設工業(本社・帯広)は2日、帯広市内の帯広中央公園と、北見市で建設中の第1北見ヶ丘トンネル現場で防災訓練に取り組み、地域住民らとともに有事に備えた。



帯広での防災訓練は地域住民参加型の大規模なもの。19回目の今回は、約2100人が参加した。早朝に震度5強の地震が発生したという想定で開始。社内に災害対策本部を設置し、パトロール員と連絡を取り合った。中央公園で市民に地震体験車の試乗やバケツリレー体験を実施。堤防決壊防止に努めた



壊を想定した水防訓練では、漏水・越水対策の月の輪工を施し、半円状に土のうを積み上げた。全道から地域貢献活動表彰を受けたことから、鹿兒島県建設業協会の役員が視察に訪れていた。宮坂寿文社長は「子どもや女性の参加が多く、防災意識を高めてもらう良ききっかけになったのでは」と話していた。

北見では、掘削中のトンネル坑内で北見警察署や地域住民ら合わせて約60人が参加。震度5強の地震が起き、トンネル内で通行車両が衝突して火災が発生したとの想定で、通報・避難活動から被災者救助活動までをシミュレーションした。訓子府側坑口から200m地点に移動した後、訓練開始。事故に巻き込まれたバスからの自主避難を想定し、発煙筒からの煙が充満する中、5組に分かれて参加者が避難を始めた。

北見では、掘削中のトンネル坑内で北見警察署や地域住民ら合わせて約60人が参加。震度5強の地震が起き、トンネル内で通行車両が衝突して火災が発生したとの想定で、通報・避難活動から被災者救助活動までをシミュレーションした。訓子府側坑口から200m地点に移動した後、訓練開始。事故に巻き込まれたバスからの自主避難を想定し、発煙筒からの煙が充満する中、5組に分かれて参加者が避難を始めた。

トで参加者の無事を確認した後、警察署の指導の下、AEDを使った救命措置を学んだ。この日は、札幌支店でも同様の訓練をした。身を低くして避難した

地域住民参加型
防災訓練を実施
宮坂建設工業

宮坂建設工業札幌支店(本社・帯広)は2日、市内の現場で地域住民参加型の防災訓練を実施し、災害時に備えた「写真」



こととして19回目を迎えた訓練には、社員や協力業者、地域住民ら80人が参加。国道12号札幌市東橋脚工事の施工現場内に会場を設定した。震度5強の地震が発生したと想定。大型クレーンでオイルフェンスを設置して、豊平川への油流

出を防ぐ訓練や、札幌市中央消防署の協力を得て、消火器を使った消火訓練などを実施した。

このほか同署の指導でAED(自動体外式除細動器)による心肺蘇生方法、人工呼吸、心臓マッサージなどの救命訓練もあり、参加者は実践しながら取り組んだ。同社はこの日、帯広市内と北見市内でも同様の訓練をした。